

## 平成 30 年度第 1 回理事会 議事録

日 時： 平成 30 年 6 月 2 日（土） 10：00～13：50

会 場： 東京コンベンションホール 5 階 大ホール B

出席者：

理事長：藤井 知行

副理事長：木村 正、八重樫 伸生

理事：青木 大輔、池田 智明、板倉 敦夫、苛原 稔、加藤 聖子、北脇 城、吉川 史隆、  
生水 真紀夫、関 博之、関沢 明彦、千石 一雄、竹下 俊行、寺田 幸弘、檜原 久司、  
蜂須賀 徹、三上 幹男、村上 節、山田 秀人

監事：岩下 光利、櫻木 範明、平松 祐司

顧問：小西 郁生、吉村 泰典

特任理事：海野 信也、大須賀 穰、荻田 和秀、宮城 悦子

専門委員会委員長：金山 尚裕

幹事長：阪埜 浩司

副幹事長、第 71 回学術集会プログラム委員長：梶山 広明

幹事：岩瀬 春子、上田 豊、織田 克利、加藤 育民、河野 康志、岸 裕司、木村 文則、  
桑原 章、桑原 慶充、佐藤 美紀子、澤田 守男、関根 正幸、寺尾 泰久、  
西ヶ谷 順子、西郡 秀和、馬場 長、平田 英司、矢内原 臨、山上 亘、矢幡 秀昭

議長：光田 信明

副議長：久具 宏司、田村 秀子

弁護士：平岩 敬一

名誉会員：落合 和徳

事務局：青野 秀雄、吉田 隆人

10 時 00 分 理事長、副理事長、常務理事、理事合わせて 21 名が出席（榎本隆之理事、岡本愛光理事、京哲理事、工藤美樹理事は欠席）し、定足数に達したため藤井知行理事長が開会を宣言した。藤井知行理事長が議長となり、議事録署名人として藤井知行理事長および岩下光利監事、櫻木範明監事、平松祐司監事の計 4 名を選出し、これを承認した。

### 第 2 回 Plus One Project (POP2) 報告

議事に先立ち、POP2 の活動報告がビデオで放映された。

#### I. 平成 30 年度第 1 回臨時理事会議事録の承認

原案通り承認された。

#### II. 主要協議事項

##### 1) 平成 29 年度事業報告について

平成 29 年度事業報告については 6 月 23 日の定時総会に諮る予定である。この事業報告書は、定時総会での承認後、内閣府に提出する予定である。 [資料：協議 総務 1]  
本件につき、青木大輔理事から資料に基づいた説明があり、特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 2) 平成 29 年度確定決算について

(1) 5 月 18 日に平成 29 年度の決算監査を行い、併せて会計担当理事会を開催した。平成 29 年度決算については 6 月 23 日の定時総会での承認後、内閣府に提出する予定である。

[資料：協議 会計 1, 2, 3, 4]

**吉川史隆理事**「平成 29 年度は、機関誌等刊行事業、特にガイドラインの収益がかなり大きかった。

また、専門医更新の対象者が多かったことが事業収益に寄与した。一方で、受取寄付金は年々減少しており、サマースクール、プリングフォーラム、Plus One Project は赤字となった。」

**藤井知行理事長**「産婦人科への勧誘や若手育成は重要な事業であるが、費用削減には努めている。」  
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 平成 29 年度決算についての監査報告

[資料：協議 会計 5]

岩下光利監事より、事業報告及び決算書類は適正に示しているとの報告があった。

(3) 平成 29 年度決算についての独立監査人の監査報告

[資料：協議 会計 6]

## 3) 運営委員会の答申について

[当日資料：運営委員会 0]

(1) 平成 30 年度定時総会（開催日時：6 月 23 日（土）、場所：都市センター）の議案について

[資料：運営委員会 1]

(2) 第 74 回学術集会長候補者の公募について

第 74 回学術集会長候補者の公募について、「会員へのお知らせ」をホームページ及び機関誌 6 月号に掲載する。

[資料：運営委員会 2]

(3) 転載使用に関する規程について

[当日資料：運営委員会 3]

**青木大輔理事**「ホームページやガイドラインのコンテンツ等の著作物が転載されるとき規程が、これまでは統一されていなかったため、今回それらを統一し、料金についても整理を行った。尚、本会と日本産婦人科医会が共同して作成・編集した刊行物に掲載された図表等の転載を希望する場合には、本会に転載を申請して頂き、転載料は折半することが協議決定している。」

**藤井知行理事長**「これまでは、転載料について上限が決められていなかったが、今後は 100 万円を上限にすることとした。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 個人情報保護規程およびプライバシーポリシーの改訂について

[資料：運営委員会 4-1, 4-2]

**青木大輔理事**「本会の個人情報保護規程とプライバシーポリシーについて、学会の中で臨床研究を行うようになってきたことや、個人情報保護法が制定されたことなどに沿う形で改訂を行った。」  
本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) 日本医学会研究倫理教育研修会の報告について

[資料：運営委員会 5]

**青木大輔理事**「本件については、報告会に参加頂いた三上幹男理事から報告頂く。」

**三上幹男理事**「基本となるのは次の 4 項目である。①雑誌編集のガイドライン、②臨床研究法の施行でどのように変わるか、③臨床研究と利益相反管理、④研究発表に当たっての倫理ガイドライン。これらに関連する学術委員会、編集委員会、コンプライアンス委員会の委員長と情報共有し、会員へ周知するよう依頼されている。周知方法については検討中である。」

本件を会員へ周知する事について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 事務局の働き方改革について

[当日資料: 運営委員会 6]

**青木大輔理事**「事務局運営の効率化および事務局職員の健康管理も考えた上、本会事務局においても『働き方改革』に着手しなければならない。今後は、事務局職員が働ける時間の上限を下げ、それを厳守する運営になることをご了解頂きたい。よって、事務局への作業負担、或いは休日や平日夕方からの会議への事務局職員の同席についても、これまで以上に配慮頂きたい。事務局職員不在時に事務局内の会議室を使用する際には、代表者に入退室カードを貸出すことで対応する。現在は代表電話のみの電話についても、担当者単位で個別回線を敷き、代表電話は9時～18時までとする予定である。このタイミングで一度、事務局の人事・労務管理運営について外部の専門家にコンサルを依頼し、その上で改革を進めていきたいと考えている。また、今後は事務局の人事労務管理を吉田次長に任せたい。」

**村上節理事**「事務局の働き方改革は進めるべきと考える。関連して一点申し上げたい。新規事業や新しい委員会の立ち上げは必要であるが、一方で不必要になった委員会あるいは業務を終了するようなことを、運営委員会で検討頂きたい。肥大化する業務を食い止めないと、働き方改革にはならない。」

**青木大輔理事**「その点は大変大事なことだと考える。」

**藤井知行理事長**「事務局職員の健康管理、事務局体制の維持の為に、事務局の働き方改革が必要になっている。そのためには、我々会員の協力も必要になってくる。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 理事会、委員会開催の際の前泊・後泊費用の支払いについて

[当日資料: 運営委員会 7]

**青木大輔理事**「現行の本会旅費規定には、会議参加目的の出張(片道50Km超)に伴う宿泊費(前泊・後泊)について、明確な基準が示されていない。今の運営を続けた場合の弊害を懸念し、今後の運営については資料の通り、一定の判断基準を会員間で共有したい。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### 4) その他

(1) 平成31年度日本産科婦人科学会予定表案について

[資料: 協議 その他 1]

日程をご確認いただき、追加の変更も加えて6月23日の第2回臨時理事会で確定させたい。

**青木大輔理事**「今回提示した予定表は案であり、6月23日開催予定である第2回臨時理事会での承認事項となる。意見があれば、事務局まで連絡頂きたい。」

**藤井知行理事長**「平成31年度は理事の改選も行われるが、理事の先生方は、所属大学等でのどうしても外せない所用以外は、当会理事会への出席を最優先して頂きたい。」

### III. 専門委員会報告並びに関連協議事項

#### 1) 生殖・内分泌委員会 (大須賀穰委員長)

(1) 会議開催

平成30年度第1回生殖・内分泌委員会
--------------------

7月12日(木) 予定
-------------

(2) 「月経異常診断の標準化に関する小委員会」立ち上げについて

[資料: 専門委員会 1-1]

**大須賀穰委員長**「FIGOが提唱している月経異常の分類を日本では採用しておらず、これを、用語集・用語解説集委員会・診療ガイドライン運営委員会、その他関係の委員会と連携しながら、学術的

にしっかりと検討したうえで整備する必要が出てきた。これが小委員会立ち上げの理由である。」  
本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 2) 婦人科腫瘍委員会 (榎本隆之委員長)

### (1) 会議開催

平成 30 年度第 1 回婦人科腫瘍委員会
-----------------------

6 月 23 日 (土) 予定
-----------------

### (2) 子宮頸癌 FIGO staging 改訂について

[資料: 専門委員会 1-2]

**青木大輔理事**「FIGO が子宮頸がんのステージングを変更した。画像の判断を加味するというもので、かなり大きな変更である。本会としての対応を検討したい。ただし、日本語訳の作成、腫瘍登録の項目の変更やシステム改変、取り扱い規約の改変等、膨大な作業が必要となる。」

### (3) 日本外科学会より死体解剖のガイドライン改訂版 (確定版) を拝受したので、本会 HP に掲載したい。

[資料: 専門委員会 2]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (4) SG02018 での LACC trial の発表を受けて、5/13 の日産婦学術集会開催中に関連学会代表を交えて「第一回低侵襲広汎子宮全摘についての意見公開会」を開催した。引き続き婦人科腫瘍委員会内に「低侵襲広汎子宮全摘術のあり方に関する小委員会」を新たに設立して、症例登録システムの確立を含めた議論を継続して行いたい。

**青木大輔理事**「本年 3 月の SG02018 における LACC trial の発表を受けて、5 月 13 日に第 1 回低侵襲広汎子宮全摘についての意見交換会を開催した。開腹の広汎子宮全摘術と腹腔鏡(一部ロボットを含む)低侵襲広汎子宮全摘術の RCT の結果、開腹の方が予後が良かったというものである。この結果をどう取り扱うかを検討するために、低侵襲広汎子宮全摘術の在り方に関する小委員会を婦人科腫瘍委員会の中に設置したい。関連学会から代表の方に出て頂くのが良いと考える。」  
本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (5) 6 月 18 日に日本産科婦人科学会事務局にて HPV ワクチンについてマスメディアを対象としたセミナーを開催する。演者はシャロン・ヘンリー先生 (北海道大学)、牛田享宏先生 (愛知医科大学)、喜多村裕里先生 (大阪大学)、宮城悦子先生 (横浜大学)、上田豊先生 (大阪大学) の予定。

**宮城悦子特任理事**「2 月の市民公開講座は一般の方々とメディアの両方が対象であったが、今回はメディアに絞った。ここ最近、世界でのエビデンスの動きもあり、また 2 日前には三原じゅん子参議院議員が、厚生労働部会でかなり踏み込み、ワクチン接種の積極的勧奨の再開を強く求められたと聞いている。当セミナーでは、様々な新しい話題をメディアにお伝えし、メディアを味方に付けることを強く意識している。ご協力をよろしく願いたい。」

### (6) 領域横断的癌取扱い規約に対する意見を取りまとめて、日本癌治療学会に報告した。

## 3) 周産期委員会 (金山尚裕委員長)

### (1) 会議開催

平成 30 年度第 1 回周産期委員会
---------------------

6 月 8 (金) 予定
--------------

(2) 無痛分娩関係学会・団体連絡協議会準備委員会第3回会議の報告について

[資料：専門委員会 3, 4, 5]

本件につき、金山尚裕委員長から資料に基づいた説明があり、続いて「無痛分娩関係学会・団体連絡協議会準備委員会」準備委員会議長である海野特任理事から説明があった。

**海野信也特任理事**「無痛分娩に関して、平成29年度の特別研究班の3月末の提言では、今後どうしていくかに関して、関係学会・団体で話し合い、体制づくりをしていくことになっている。その体制づくりをするための準備委員会では、無痛分娩関係学会・団体連絡協議会という組織を作ることが合意された。第3回の会議では、具体的な協議会の中身や今後の運営の進め方について協議が行われた。また、今後の運営経費についても検討が行われている。」

**藤井知行理事長**「国も主導していることであり、厚生労働省からの資金拠出が本来の筋のように考える。」

**海野信也特任理事**「現時点では、研究費から何とか資金を捻出して経費に充てるという話になっている。今後、無痛分娩関係学会・団体連絡協議会の事務局がきちり組織できるようになれば、そこへの補助金のような形態になる可能性がある。」

#### 4) 女性ヘルスケア委員会（北脇城委員長）

(1) ホルモン補充療法ガイドライン 2017 頒布状況

5月24日現在、書籍版2,753冊、電子版用ID・PW付848冊（内、電子版ダウンロード259件）

(2) 低用量経口避妊薬、低用量エストロゲン・プロゲステン配合薬ガイドライン 2015 頒布状況

5月24日現在、5,162冊

(3) 女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針頒布状況

5月24日現在、706冊

#### IV. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

##### 1) 総務（青木大輔理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向 特になし

(2) 会員への会費免除について

山形地方学会から1名の会員について、病気療養中を理由とした平成30年度会費免除申請を受領した。

[資料：総務 1-1]

本件につき、青木大輔理事から資料に基づいた説明があり、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 平成30年度定時総会時のビジネスミーティング日程について

[資料：総務 1-2]

(4) 第71回学術集会における学術集会幹事について

以下の5人の先生方に幹事をお願いしたい。

後藤真紀先生 小谷友美先生 鈴木史朗先生 大須賀智子先生 中野知子先生  
本件につき青木大輔理事から資料に基づいた説明があり、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) サブスペシャリティ学会の専門医数について [資料：総務 2]

## 〔Ⅱ. 官庁関係〕

### (1) 厚生労働省

①厚生労働省子ども家庭局母子保健課を通して同省医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課より、個人輸入した海外製経口妊娠中絶薬による健康被害についての周知依頼を受領した。ホームページに掲載して本会会員に周知したい。 [資料：総務 3]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

②厚生労働省医政局研究開発振興課より、「臨床研究法の施行等に関する Q&A について (その 3)」の周知依頼を受領した。ホームページに掲載して本会会員に周知したい。 [資料：総務 4]  
本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (2) 東京都

東京都生活文化局から、ベビーバスの安全な使用に関する調査の実施結果報告を受領した。

[資料：総務 4-1]

## 〔Ⅲ. 関連団体〕

### (1) 日本医学会、日本医学会連合

①本会からも応募した第 154 回日本医学会シンポジウムテーマ案の採用結果の通知があり、「AI と医療の現状と問題点」(仮題) をテーマに開催されることになった。 [資料：総務 5]

②子宮頸がんワクチンに関しての日本医師会・日本医学会合同シンポジウムについて

[当日資料：総務 5-1]

**藤井知行理事**「日本医学会会長の門田守人先生から、本年 10 月から 11 月ぐらいに、日本医学会・日本医師会で HPV ワクチンの勧奨再開を求める方向で、一般の方とマスコミを対象にした学術的な公開フォーラムを行いたいという話があった。内容や構成については、日本産科婦人科学会が主導していただければということであったので、日本小児科学会の協力も得て進めていきたい。今回は純粋に学術的に行いたいということである。この企画については婦人科腫瘍委員会および宮城悦子特任理事と協力して進めたい。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

③センメルワイス医師の胸像設置プロジェクトへの参画について [当日資料：総務 5-2]

**藤井知行理事**「日本医療政策機構理事長の黒川清先生から話があった。センメルワイス生誕 200 年記念事業を、ハンガリー政府と日本政府関係者や医師会等で行うというものである。産婦人科との接点であるが、センメルワイスという方は 200 年ぐらい前の方で、当時、産褥熱で命を落とす女性が多い中、手を洗うことで死亡を減らせるということを提唱したとのことである。実際の事業としては、記念式典を行い、胸像を建てることである。コミッティーには日本政府関係者やハンガリー政府、財界人や議員も入っている。コミッティーに入ることは良いかと思うが、多くの資金拠出は難しいことは伝えている。」

本件につき、資金拠出することに異議はなく、全会一致で承認された。具体的な拠出金額については、全体金額等についての情報を得た段階で決める。

#### 〔IV. その他〕

(1) 公益財団法人山口内分泌疾患研究振興財団では、6月より今年度の研究助成金の応募を開始するが、それについて昨年と同様、本会ホームページに掲載してほしいとの依頼があった。

[資料：総務 6]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 株式会社電通の担当から、女性医学領域において本会と協力して取り組めることがないかについて相談したいとの連絡があった。

[資料：総務 7]

**青木大輔理事**「『HUMAN+』も最初の頃は、我々のアクティビティを担当広告代理店に広げて頂き、一般市民との距離を近づけてもらえた。当初の目的は達成しており、現在はリクルート主導になっている。今後は慎重に対応していくのがよいかと考える。このような活動に詳しい方がおられたら情報提供をお願いします。」

**藤井知行理事長**「本会はリクルートと既に事業を行っているため、本会が新たに電通と契約を結ぶことについては慎重に検討する必要がある。」

**青木大輔理事**「まずは電通担当者からの話を伺い、改めて報告する。」

### 2) 会 計 (吉川史隆理事)

(1) 取引銀行の格付と預金残高について

[資料：会計 1]

(2) 学術集会の支出内容の監査法人による確認について

**吉川史隆理事**「TOMA 監査法人から、過去の学術講演会における担当業者から提出されている収支内容について、一部に不明確な部分があるため、詳細に調査してはどうかとの提案があった。具体的には、マージンの設定や「一式」という記載での処理についてである。ただし、それらは既に決算処理が終了している。」

**藤井知行理事長**「第70回学術集会でのテント経費の扱いにも留意する必要がある。監査法人に調査してもらうことで、担当業者に今後適切な処理を促す効果も期待できる。調査に若干の経費はかかるが、第70回学術集会について調査を行いたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

### 3) 学 術 (木村正副理事長)

(1) 学術委員会

① 会議開催

学術講演会評価委員会 [資料：学術 1, 当日 2]	5月31日(木)
第1回学術委員会	6月1日(金)

木村正副理事長から資料に基づいた説明があった。また、第70回学術集会担当の東北大学の先生方に対して謝辞が述べられた。

**平松祐司監事**「医学生フォーラムへの医学部生の参加者数はどう推移しているのか。」

**木村正副理事長**「今回は130名の参加であった。実際の応募数はこれよりも多く、若干名に断った。」

アンケート結果が275ページからグラフで出ているが、『面白かった』、『有意義だった』、『産婦人科への興味が増した』との回答が多く、参加医学部生にとっては非常に有意義な会であったと思われる。」

**平松祐司監事**「学術講演会に参加した学生の数は把握できているか。」

**木村正副理事長**「参加受付状況は、非会員の学生が225名、会員の学生が7名であり、計232名の学生が参加していた。今年度の専門医試験を受ける産婦人科医には医学生フォーラムが始まったころの参加者が混じってくる。過去に参加された方がどれぐらい産婦人科医になっているか、今後継続的に調査していく必要がある。」

②平成30年度学術奨励賞の推薦および応募について [資料:学術3]

**木村正副理事長**「応募者の年齢を上げるべきかどうかに関して、特に周産期領域と女性ヘルスケア領域での応募者が少なく、また受賞該当者がいない年度も多いことが継続して議論され、学術委員会としては、なるべく各分野1名は選んで頂く、即ち該当年度に応募された方の中で一番優秀な方を選ぶという運営にしたいとの結論に至った。また、特に女性ヘルスケア領域では、他分野の研究をされていた先生が経歴の途中から女性ヘルスケア分野にシフトされているケースがよく見られ、そのような研究者の先生も選考から排除しない方針である。各分野で、原則1名を選出したい。このような趣旨について、各大学の主任教授ならびに地方連絡委員会委員長宛てに手紙を出し、また、選考委員の先生方にもお伝えしたい。」

③平成30年度「日本医師会医学賞」、「日本医師会医学研究奨励賞」候補者推薦について

[資料:学術4]

**木村正副理事長**「日本医師会医学研究奨励賞候補者推薦について、学術委員会で慎重に検討した結果、富山大学の吉野修先生を推薦したいということになった。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

④平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞受賞候補者の推薦依頼について [資料:学術5]

**木村正副理事長**「本会から何人を推薦しても良いということであり、理事の先生方には候補者の推薦をお願いする。候補者については事務局に連携頂き、決定は学術委員長に一任頂きたい。」

**藤井知行理事長**「本会ホームページに掲載し、会員への周知もお願いしたい。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) プログラム委員会関連

①第71回学術講演会プログラム委員会 [資料:プログラム委員会1-1, 1-2, 1-3]

プログラム(案)、一般演題応募について

**梶山広明プログラム委員長**から資料に基づき説明があった。

**木村正副理事長**「演題登録にUMINシステムが使えなくなる為、新たに一から作って頂き、大変なご苦勞を掛けている。」

**藤井知行理事長**「海外招聘講演4つのうち、3つが腫瘍領域になっている。全体としてのバランスにもご配慮頂ければありがたい。」

②第72回学術講演会プログラム委員会 [資料:プログラム委員会2]

特別講演・シンポジウム演者公募について



4) 編集 (加藤聖子理事)

(1) 会議開催

第1回編集担当理事会	6月1日(金)
------------	---------

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況: 2018年投稿分 (5月17日現在)

[資料:編集1]

2018年 JOGR 投稿状況 2018年5月17日現在

投稿数	643
Accept	21
Reject	306
Withdrawn/Unsubmitted	86
Under revision(改訂提出待ち)	42
Under review (審査中)	188
Expired(再投稿提出期限超過)	0

2017年 JOGR 投稿状況 2018年5月17日現在

投稿数	1,487
Accept	234
Reject	1,109
Withdrawn/Unsubmitted	110
Under revision(改訂提出待ち)	13
Under review (審査中)	18
Expired(再投稿提出期限超過)	3

(3) 第70回学術講演会での編集企画について

編集委員会企画として、第70回日本産科婦人科学会学術講演会期間中の5月13日(日)に「研究倫理・論文作成について」として講演を行った。

**加藤聖子理事**「第70回学術講演会で編集委員会として初めての企画を行った。論文の書き方についてお二人の先生と私(加藤聖子理事)が講演を行った。British Journal of OBGYNのEditor-in-chiefであるDr. Mike Marshを招聘し、論文作成とイギリスの状況について、成育医療研究センターの森臨太郎先生より詳しい統計的考え方をもとにした論文作成について、私(加藤聖子理事)が論文不正について講演した。実際の出席者も100名以上となり、引き続き第71回学術講演会でも同様の企画を実施する予定である。」

(4) 新規広告申し込みについて

[資料:編集2]

和文機関誌への新規広告申し込み(PhCホールディングス株式会社 企業広告)(社名変更に伴う告知広告)の掲載希望が届いた。

**加藤聖子理事**「医療機器の会社であり、特に内容的には問題ないと考えられる。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) JOGR 販売価格についてワイリーより通知

[資料:編集3]

JOGR 編集・発行担当業者であるワイリーより資料のような通知を受領した。JOGRのジャーナル価格設定に関しては、現在のご契約に基づき、10%以下の値上げのため、案内のみとなる。

加藤聖子理事「非会員が、各大学の図書館からウェブに入る際の費用が6パーセントの値上げとなることがWileyより連絡があったが、値上げが10パーセント以下の際には案内のみ行うという規程があり、報告のみに留める。」

(6) 和文機関誌との同梱希望時の請求額について [資料:編集4]

加藤聖子理事「同梱は大日本印刷株式会社に依頼しているが、1万枚1種なら25,000円、2種なら50,000円という形で請求が来ることを踏まえ、今後1種当たり税込み100,000円を同梱希望者に請求したいと考えるが、本件につき審議頂きたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 5) 渉外 (岡本愛光理事欠席につき、矢内原臨主務幹事)

### (1) 会議開催

第71回日産婦学会学術講演会海外ゲストに関する打ち合わせ会	6月1日(金)
第1回渉外委員会	8月31日(金) 予定

### (2) AOFOG 関連

President および Secretary General より、AOFOG の新しい Website <http://www.aofog.net/> 公開の通知を受けた [資料:渉外1]

### (3) ACOG 関連

4月27-30日、テキサス オースチンにて開催の Annual Clinical and Scientific Meeting of ACOG に本会より藤井知行理事長、吉川史隆第71回学術集会長、阪埜浩司幹事長、寺尾泰久幹事、及び若手医師6名を派遣した。 [資料:渉外2]

### (4) 国際協力機構 (JICA) / 草の根技術協力事業 (草の根パートナー型) 「工場労働者のための子宮頸がんを入口とした女性のヘルスケア向上プロジェクト」 関連

5月に木村正副理事長、澤田守男幹事、西ヶ谷順子幹事、藤田則子医師、松本安代医師をプノンペンに派遣した。

### (5) その他

①平成30年度臨時総会にて表彰の海外名誉会員について、候補者を紹介する小冊子を総会当日出席者に配布し、授賞式ではスライドを上映した。

②第70回日産婦学会学術講演会会期中に、ACOG, AOFOG, KSOG および TAOG, SCGO 役員と本会役員とのミーティングを行った。 [資料:渉外3]

③5月11日に日韓台パーティー、5月12日に海外ゲストパーティーを理事長主催で開催した。

④第70回日産婦学会学術講演会后、第2回日韓台若手医師 Extended Exchange Program が各受け入れ施設に於いて5月14~19日まで行われた。

木村正副理事長「AOFOGのウェブサイトだが、あまりに国旗の位置が大雑把過ぎる。日本の領土は北海道だけになっているので修正依頼をお願いしたい。」

藤井知行理事長「カンボジアの草の根技術協力事業は、子宮頸がんの診療だけではなく、学会運営、研究についても行えるよう支援する事業も全て入っていたと思う。本会にカンボジアの若手医師が2名程度参加できるようにするのも一つの方法である。渉外委員会と学術委員会で検討頂きたい。」

## 6) 社 保 (北脇城理事)

### (1) 会議開催

第1回社保委員会	7月20日(金) 予定
----------	-------------

(2) 「腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術」の適用見直しによる「子宮悪性腫瘍手術(広汎切除)(腹腔鏡下)」新規収載の要望書を厚労省へ提出した。 [資料: 社保1]

北脇城理事「単純子宮全摘出術も広汎子宮全摘出術も、同一点数に算定されているが、手術の難易度が異なることと、広汎子宮全摘出術は高難度新規医療技術であることから新規収載の要望書を厚労省へ提出した。」

(3) 「腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術」について、平成30年度診療報酬改定が不合理である旨を、外保連に回答した。緊急要望項目として外保連から厚労省へ提出の予定である。 [資料: 社保2]

北脇城理事「(2)を受けて、外科系学会社会保険委員会連合からも、同様の内容を提出している。」

(4) 「腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術」の実施に関する注意事項を本会HPに掲載した。

北脇城理事「腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術に関して高難度新規医療技術であることや、施設認定要件を守るように注意喚起をした。」

(5) ロボット支援下婦人科悪性腫瘍手術・良性疾患手術実施報告について [資料: 社保3]

## 7) 専門医制度 (八重樫伸生副理事長)

### (1) 会議開催

平成30年度第1回中央専門医制度委員会	5月19日(土)
平成30年度第1回研修システム改修小委員会	5月22日(火)

### (2) 日本専門医機構

①日本専門医機構から受領した「サブスペシャリティ領域の機構認定基準および申請手順(フロー)」について [資料: 専門医1]

八重樫伸生副理事長「日本専門医機構からサブスペシャリティ領域の機構認定基準および申請手順が送付されてきた。基本領域の学会内にある学会(日本婦人科腫瘍学会と日本産科婦人科学会との関係)と複数の基本領域の学会にまたがる学会(日本生殖医学会と日本産科婦人科学会および日本泌尿器科学会との関係)により対応が異なることが予想されると思われるが、各学会内で協議して日本産科婦人科学会に申請の手順を提出するよう求める予定である。また、日本産科婦人科学会の4領域の学会については、藤井知行理事長より4領域の各学会の理事長に連絡をとり相談を行う予定であり、足並みを揃えて話を進める。また、専門医を取得した先生を集め、海外な

どで実施されているコンボケーションを総会等で実施してはどうか検討しており、中央専門医制度委員会、未来委員会、あるいは総務等で今後さらに検討する予定である。」

**藤井知行理事** 「サブスペシャリティについては、機構の専門医基本領域連携委員会が開催される予定であり、その内容、状況をよく把握したいと思う。外科などは、小さいものまで含めて全部出しているということなので、産婦人科も出すだけ出して、あとは機構がどう判断するかということになるかと思う。コンボケーションは卒業式の様なものだが、若い専攻医からそういうものをやってくれたらすごく嬉しい、やって欲しいという意見が大半であるということだ。このコンボケーションのもう一つ良いことは、総会に最初から参加させることによって、若い人に総会で何をやっているかを見せる事が出来るのではないかと考える。担当委員会については、担当校と中央専門医制度委員会、総会なので総務となる。また当日の実際の業務やお手伝い、若手専門医にとってこれからのやる気を引き出すという事にもなるので、未来委員会と一緒にやるとしたらどういう形でやるかを討議したいと思う。コンボケーションを行うとなると、当日の理事会、総会は1時間前倒して始めるという形になる。その点検討したいが、よろしいか。」

**木村正副理事** 「専攻医教育プログラムと重なるので、調整が必要かと考える。355 ページでサブスペシャリティ領域の機構認定の基準および認定審査の手順についての項目を読んでいると、結局今回は、ご存知の通りかなり抑制的なことが書いてある。少し気になるのは、『全国の平均的な都市での中核病院に掲げてある診療科、診療部門などとする』という記載がある。この文章から見るとかなり限定的であって、開業医の先生の主だった分野というのはあまり考えていない、病院の分野であるという考え方を持っているような気がする。そういうことを念頭におきながら、ゆっくり機構の出方を見るのが良いのではないかという気がした。」

**藤井知行理事** 「正にその様なことを話し合うための基本領域連携委員会であり、同委員会ですっかりと発言をさせて頂きたい。」

**八重樫伸生副理事** 「恐らくこのサブスペシャリティも入ると、今、日本産科婦人科学会がやっているような、施設基準を取得する等いろいろなプログラムを作るといった、非常に膨大なペーパーワークが必要になってくる訳である。そこまでやる気がある、またそれを受けられるサブスペシャリティの学会がどのくらいあるのか、また各施設も日本産科婦人科学会プラス4つのサブスペシャリティを管理することを大学がやることになる。その為、かなり大変な労力が必要ということも含めて、出すかどうか、或いは出して合格するか否かだが、その辺りも一緒にいろいろ考えてみたほうが良いのではないかと思う。」

**木村正副理事** 「私もそれに賛成する。今までであったのかどうかは分からないが、資料 359 ページの今後の対応というところの(2)の一番最後、『学会認定の専門医』という言葉が初めて出てきた。今まで学会は機構しか専門医にさせないという文言になっていたように思うが、ここでそういう言い方をしているので、様子を見ながらという対応で良いのではないかという気がする。」

**八重樫伸生副理事** 「もしかすると2~3年、周りの状況を見てから始めた方が良いかもしれない。」

## 8) 倫理委員会 (苛原稔委員長)

### (1) 会議開催

平成 30 年度第 2 回倫理委員会	5 月 15 日 (火)
平成 30 年度第 2 回着床前診断に関する審査小委員会	7 月 24 日 (火) 予定
平成 30 年度第 3 回倫理委員会	8 月 7 日 (火) 予定

### (2) 本会の見解に基づく諸登録 (平成 30 年 4 月 30 日)

- ①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：78 研究
- ②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：611 施設
- ③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：610 施設
- ④顕微授精に関する登録：572 施設
- ⑤医学的適応による未受精卵子、胚（受精卵）および卵巣組織の凍結・保存に関する登録：95 施設
- ⑥提供精子を用いた人工授精に関する登録：12 施設

(3) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について [資料：倫理 1]  
 5月18日現在申請738例 [承認622例、非承認21例、審査対象外36例、取り下げ5例、照会18例、保留6例、審査中30例] (承認622例のうち30例は条件付)

(4) 「臨床研究審査小委員会」報告事項

①大阪母子医療センター産科光田信明会員より申請のあった、「前期破水の周産期管理に関する全国調査」について審査を行い、4月3日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 2]

②自治医科大学附属病院総合周産期母子医療センター母体・胎児集中治療管理部大口昭英会員より日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請として承認された、「早発型妊娠高血圧腎症の3歳時発達指数への影響：多施設後向きコホート研究」について審査を行い、5月17日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 3]

③自治医科大学附属病院総合周産期母子医療センター母体・胎児集中治療管理部大口昭英会員より日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請として承認された、「早発型妊娠高血圧腎症の最適な妊娠週数区切り値の評価：多施設後向きコホート研究」について審査を行い、5月17日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 4]

④富山大学産科婦人科齋藤滋会員より研究計画変更の申請があった、「子宮収縮抑制剤の新生児への影響調査検討（承認番号51）」について迅速審査を行い、5月17日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 5]

⑤東海大学医学部専門診療学系産婦人科学三上幹男会員より日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録データベース使用申請として承認された、「日本婦人科腫瘍学会ガイドライン委員会：婦人科がん治療ガイドラインのClinical Question 検証－日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会腫瘍登録データを用いて－」について審査を行い、5月18日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 7]

⑥東海大学医学部専門診療学系産婦人科学三上幹男会員より申請のあった、「日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会：本邦における子宮頸癌に対する妊孕性温存手術（単純子宮頸部摘出術、準広汎子宮頸部摘出術、広汎子宮頸部摘出手術）の実態調査」について審査を行い、5月18日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 8]

(5) 「専門委員会データベース情報」の利用を希望する研究申請を行う場合の注意点個人情報保護の観点より一の改定について [資料：倫理 6]

**三上幹男副委員長**「専門医委員会データベース情報の利用を希望する研究申請を行う場合の注意点について変更を行った。専門委員会が持っているデータというのは個人が特定できない、匿名化されている情報である。しかし、それに登録施設の名前を付けると個人が特定できる情報となる。

施設名を出して欲しいという申請が複数件あったので、それについての注意点として作成した書式である。出来れば、そういう研究も少しずつ進めさせて頂きたいという方向でこの注意点を作成した。申請者の方に個人情報や特定できないような情報の利用の仕方、情報の突合方法等を入力し、それを見た上で情報を出すかどうかを判定することにした。各登録事業の登録データベースでは、日本産科婦人科学会番号という整理番号を付けている。その番号をうまく使うことによって、登録施設名を出さなくても情報をうまく突合できる可能性があるということで、それも修正した。」

(6) NIPTに関する小委員会の構成メンバー案について [資料：倫理 9]  
**苛原稔委員長**より、NIPTに関する小委員会の構成メンバー案について説明がなされた。また、委員の構成について現在も検討中である旨説明がなされた。

(7) 「着床前診断」に関する見解、細則、様式の改定案について [資料：倫理 10]  
**苛原稔委員長**「着床前診断に関する見解、細則、様式を改定したが、パブリックコメントを踏まえ、必要があれば変更し、6月23日の理事会および総会に諮る予定である。」

**苛原稔委員長**「厚生労働省の母子保健課に赴き、NIPTに関する臨床研究と一般臨床という概念について説明した。また、NIPTと優生手術の問題が別問題であるのにも関わらず関連付けて報道される危険性に関して、厚生労働省は危惧している。」

## 9) 教育 (竹下俊行理事)

### (1) 会議開催

海外派遣者選考委員会	5月12日
ガイドライン・用語集・必修知識合同打合せ会	5月16日
第1回教育委員会	6月1日

### (2) 書籍頒布状況 5月24日現在

電子版(iOS版並びにAndroid版タブレット端末専用)：ダウンロード

用語集単体	224
必修知識2013+用語集	206
産婦人科研修の必修知識2016-2018	636

書籍版：5月24日現在

	入金済み(冊)
産婦人科研修の必修知識2016-2018	958
産婦人科研修の必修知識2016-2018 電子版付き	552
産婦人科研修の必修知識2016-2018+例題と解説集	550
産婦人科研修の必修知識2016-2018 電子版付き+例題と解説集	698
用語集・用語解説集改訂第3版【販売終了】	3,259
用語集・用語解説集改訂第4版(書籍版)	212
用語集・用語解説集改訂第4版(電子版付)	543
若手のための産婦人科プラクティス【販売終了】	3,267

専門医試験例題と解説 2014【販売終了】	1,221
専門医試験例題と解説 2015【販売終了】	1,106
専門医試験例題と解説 2016	1,234
専門医試験例題と解説 2017	457
専門医試験例題と解説 2018	962

(3) 海外派遣者選考

[資料:教育 1]

5月12日に行われた委員会において派遣予定者として資料の方々を選考した。なお、来年度の募集以降は学会への貢献度ということで産婦人科未来委員会若手委員としての活動経験などを加味したいと考えている。また、派遣が決まった方には積極的に若手委員に応募をいただきたい。  
**竹下俊行理事**「上記に加え、学術委員会で設けている Award と同時に海外派遣者に申し込む方が多く、審査の公平性、或いは、Award を取った人は海外派遣にも選ばれる傾向が強いとの指摘があり、本件に関し学術委員会とも協議し、来年度の方向性を決定する。」

(4) 書籍発刊に関して

[資料:教育 2]

5月16日産婦人科診療ガイドライン作成委員会小林 浩委員長のご発案により、教育委員会・ガイドライン・用語集・必修知識の編集関係の主だった委員に集合をいただき検討を行った。問題点ならびに解決策案については資料に示すが、現状のように必修知識が先に出て、ガイドラインが後から出ることでガイドラインの内容を必修知識に反映できないので、ガイドラインの完成を先行させる。よって、2019年発刊予定であった必修知識を2020年発刊（ガイドラインと同時、またはガイドラインに遅れる発刊を予定）しても良いのではないかと意見が出された。事務局対応の問題も含むが要望に沿うようにしたい。

(5) 学会発刊書籍販売ブース設営予定

今春、用語集・用語解説集 改訂第4版ならびに専門医筆記試験に向けた例題と解説集 2018 が発刊になったこと、昨秋、ホルモン補充療法ガイドライン、女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針が発刊になったことを受け、今年度下記の学会に書籍販売ブースを設営することを予定している。

関東連合産科婦人科学会	東京都・都市センター	6月16～17日
日本周産期・新生児医学会	東京都・東京国際フォーラム	7月8～10日
日本生殖医学会	北海道・旭川市民文化会館 他	9月6～7日
日本女性医学学会	岐阜県・長良川国際会議場	11月3～4日

(6) 書籍送付代の負担に関して

現在、学会事務局へ直接の購入申し込み（医局単位での購入、請求書払い希望、書店・生協からの購入依頼等）については、送料の一部負担として500円をお支払いいただいているが、実際には東京から関東圏への発送でも下記のような経費がかかっており、本会からの持ち出しになっているので、原則、着払い、着払い対応ができない場合には実費請求としたい。また、事務局の発送の手間を軽減するため発送は原則として杏林舎に依頼したいと考えている。

サイズ	60サイズ	80サイズ	100サイズ	120サイズ	140サイズ	160サイズ
宅急便料金	907円	1,123円	1,361円	1,577円	1,814円	2,030円

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

木村正副理事長「編集に携わって下さった先生方への謝金がない為、せめて2割引きでご購入頂きたいということは大変素晴らしいことだが、冊数の制限を設けるべきである。」

竹下俊行理事「検討する。」

#### 10) 地方連絡委員会 (八重樫伸生委員長) 特になし

### V. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

#### 1) 広報委員会 (榎本隆之委員長欠席につき、梶山広明主務幹事)

##### (1) 会議開催

第4回HP整理・改変事業WG	6月23日(土) 予定
平成30年度第2回広報委員会	7月20日(金) 予定

##### (2) JOB-NET 公募情報について

###### ①JOB-NET 事業報告

[資料：広報1]

##### (3) ホームページについて

###### ①アクセス状況について

[資料：広報2]

###### ②HPリニューアルについて

[資料：広報3]

総合TOPページの写真が決定した。また、杏林舎が各ページのサイト作成を進めている。

##### (4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について

[資料：広報4]

##### (5) HUMAM+およびBaby+について

HUMAN+については9月の改訂版発行に向けて記事内容などを検討中である。アプリ版Baby+については、PUSH通知(スマホやタブレットにおいて、アプリの情報更新時にアプリ側から自動的に通知する機能)ができるように改良した。まずは5月23日に『はしか』の記事を通知送信し、今後は「学会からのお知らせ」として定期的に記事をPUSH通知にて送信予定である。

[資料：広報5]

梶山広明幹事「『BABY+』のアプリが5月20日時点のダウンロード数で2万件を突破している。リクルートが成功数字として示している、5万件のダウンロードを当面の目標としている。また、ダウンロードした閲覧者は、1日に3~4回は閲覧しているとの結果を得ており、リクルートによると、これは驚異的な数字であるとの事である。」

##### (6) アネティス夏号について

平松祐司監事「『HUMAN+』、『BABY+』を学生教育に活かしてはどうか。」

梶山広明幹事「皆でご意見を共有し検討させて頂く。」



## 2) 災害対策・復興委員会 (村上節委員長)

### (1) 会議開催

第1回災害対策・復興委員会	6月1日
---------------	------

### (2) 大規模災害対策サイト改修について

一般市民向けの画面（災害時に市民が情報検索できるためのページ）作成が完了した。ついでには、本会のHPに大規模災害対策情報システムのバナーと同様に画面にアクセスできるバナー設置を検討したい。

村上節委員長「大規模災害対策サイトの改修が終了したが、多くの施設が情報を入力しておらず、今後はその改善策が必要である。一般市民向けの画面を大々的に運用開始すると、実際に施設情報が殆ど登録されていないということが明らかになってしまうので、当面は抑えておく。今年度も8月4日土曜日に南海トラフを想定した政府大規模地震時医療活動訓練が開催される予定になっており、今年度対象の大分県、宮崎県、四国4県には訓練の時にも大規模災害対策サイトを使って貰えるようアピールする。有事の際のマニュアルをPDFで作成し、それをこのサイトの中に置くことで、平時から皆さんに入って頂くような流れをつくることを考えている。」

### (3) 災害時小児周産期リエゾン連絡協議会

養成された各都道府県の災害時小児周産期リエゾンの横の連携と情報交換のための組織の必要性について、厚労科研「災害時小児・周産期医療体制の構築と認知向上についての研究」班及び日本小児医療保健協議会（四者協）小児周産期災害医療対策委員会で検討のうえ承認された。本会としても、本連絡協議会に参画致したい。 [資料：災害対策1]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 3) 診療ガイドライン運営委員会 (工藤美樹学会側調整役欠席につき、平田英司主務幹事)

### (1) 産科編委員会 (板倉敦夫委員長)

#### ① 会議開催

ガイドライン2020産科編第3回作成委員会	5月28日(月)
-----------------------	----------

#### ② 「産婦人科診療ガイドライン-産科編2017」頒布状況について (5月24日現在)

書籍版：11,974冊

書籍版+ID/PW付き：2,119冊

電子版ダウンロード：534件

### (2) 産科編評価委員会 (田中守委員長) 特になし

### (3) 婦人科外来編委員会 (小林浩委員長)

#### ① 会議開催

ガイドライン2020婦人科外来編第6回作成委員会	5月20日(日)
ガイドライン2020婦人科外来編第7回作成委員会	6月15日(金)【予定】

#### ② 「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編2017」頒布状況について (5月24日現在)

書籍版： 7,251 冊  
書籍版+ID/PW 付き：1,745 冊  
電子版ダウンロード：479 件

(4) 婦人科外来編評価委員会（若槻明彦委員長） 特になし

4) コンプライアンス委員会（山田秀人委員長） 特になし

5) 医療改革委員会（海野信也委員長） 特になし

6) 男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会（千石一雄委員長）

(1) 第 70 回学術講演会にて、「今の時代の働き方：医師が辞めないチームをつくる」をテーマに男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会及び産婦人科未来委員会の共同企画を開催した。

(2) 学校法人大阪医科薬科大学より「女性医師支援センター」を開設したとの連絡があった。

[資料：男女共同 1]

7) 産婦人科未来委員会（生水真紀夫委員長）

(1) 会議開催

第 1 回産婦人科未来委員会	6 月 1 日
----------------	---------

(2) 2018 年度産婦人科未来委員会催事

第 2 回 Plus One Project	東京都・フクラシア東京ステーション	5 月 26～27 日
第 12 回産婦人科サマースクール	千葉県・かずさアーク	8 月 18～19 日
第 9 回産婦人科スプリングフォーラム	兵庫県・淡路夢舞台国際会議場	3 月 16～17 日

(3) 第 2 回 Plus One Project：未来の産婦人科医育成セミナー ～全国の若手医師と交流しよう 5 月 26～27 日の 2 日間にわたり東京都・フクラシア東京ステーションにおいて開催した。

参加希望者：144 名

若手指導医：38 名

スタッフ：35 名

プログラム内容：第 1 日目 分娩・胎児超音波・腹腔鏡ハンズオン、懇親会

第 2 日目 超音波シミュレーター・腹腔鏡アドバンス・妊婦蘇生・新生児蘇生・産科外科手技・生殖補助 医療からひとつ選択、討論会

生水真紀夫委員長「2019 年の Plus One Project の開催地について検討したが、会場費、交通費雑費等を勘案した結果、現行のフクラシア東京ステーションで行うことにした。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 第12回産婦人科サマースクール

会期：2018年8月18日（土）12:00頃受付開始～19日（日）13:30頃解散

会場：千葉県木更津市「かずさアーク」<http://www.kap.co.jp/>

募集人数：230名

対象者：初期研修医（1年目）／医学部学生（5・6年生）

募集期間：2018年6月1日（金）～6月22日（金）23:59まで

主な内容：ハンズオンセミナー（超音波、分娩、腹腔鏡など）、懇親会、プレゼンテーション企画など

**生水真紀夫委員長**「2019年のサマースクールの開催地については検討中である。オリンピックイヤーに当たる2020年は9月開催とする。また、2019年のスプリングフォーラムは、検討の結果淡路夢舞台国際会議場で3月16日～19日開催予定である。」

(5)『専門医試験の終了直後に、受験者に産婦人科専攻動機などについてのアンケートを実施することについて専門医制度委員会で承認を得た。アンケート内容は、前年度に準拠しておこない比較可能なものとする。 [資料：産婦人科未来1]

**生水真紀夫委員長**「昨年紙ベースでのアンケートの施行は回収率が悪かったことから、今年度は専門医試験終了直後の空き時間に、Googleフォームで回答するようにすることを中央専門医制度委員会と協議し、決定した。」

**生水真紀夫委員長**「この他、WATOG (World Association of Trainees in Obstetrics and Gynaecology) に本会から若手委員3名の派遣を予定している。旅費など3名で50万円を補助する予定である。」

**平松祐司監事**「サマースクールの赤字額が気になる。本会としてどれだけの予算を充てるのか、連合地方部会に安易に頼るのはどんなものか。また、『BABY+』が黒字化した段階でそこから予算取りする事等検討してはどうか。」

**藤井知行理事長**「赤字ということは予算をオーバーしているということであり、予算立てをより精緻にすべきである。」

## 8) 女性活躍のための健康推進委員会（大須賀穰委員長）

### (1) 会議開催

第1回女性活躍のための健康推進委員会
--------------------

7月17日（火）予定
------------

(2) 5月12日仙台にて、女性活躍のための健康支援の活動推進についての要望書を野田聖子総務大臣に提出した。 [資料：女性活躍1]

## 9) 医療安全推進委員会（村上節委員長）

(1) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、平成30年4月末時点での医療事故調査制度の現況報告を受領した。 [資料：医療安全1]

(2)一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査・支援センターより、センター調査の協力学会として平成30年度各ブロックの担当者リスト更新依頼があった。66名の先生方に受諾いただき、平成30年度版を作成した。 [資料：医療安全2]

10) 公益事業推進委員会 (八重樫伸生委員長) 特になし

11) 児童虐待防止のための女性支援委員会 (荻田和秀委員長)

(1) 会議開催

第1回児童虐待防止のための女性支援委員会	5月13日 [資料：児童虐待防止1]
----------------------	--------------------

荻田和秀委員長 「児童虐待防止のための公開シンポジウムの開催を検討している。」

藤井知行理事長 「特別養子について制度の動きが活発化しているが、これについても発信していくべきではないか。」

荻田和秀委員長 「特別養子縁組についても早急に発信を検討する。」

## VI. その他

(1)平成30年度議事録作成幹事予定表について [資料：その他1]

平松祐司監事 「『HUMAN+』や『BABY+』の配信に関する総務の議題があったが、現在協力体制を組んでいるリクルートに交渉する前に電通とも交渉したが、その時は全く乗り気ではなかった。この点も念頭に置いて検討して頂きたい。」

藤井知行理事長 「青木大輔理事とも相談した上で対応する。」

他に議題が提出されることなく会議終了。

以上